

かながわ産学公連携推進協議会（CUP-K）での活動

専任教員 谷村 誠

かながわ産学公連携推進協議会（CUP-K）は、機器分析に関係した神奈川県内の大学や公的支援機関が中心となって平成 21 年に発足しました。協議会設立の目的は

- ・神奈川県内中小企業における研究開発事業をいかにして促進できるか？
- ・そのためには産学官（特に分析技術）がどのような支援をすれば良いか？

の観点から様々な情報交換をすることです。この中で具体性のある案については実行に移している例もあります（詳細は年報 22 号にて詳述しておりますのでご興味ある方はご覧になって下さい）。

令和元年度の研究開発事業化促進ネットワーク会議（旧分析センター連携会議）は令和元年 11 月 5 日（火）に神奈川大学湘南ひらつかキャンパスにて開催されました。今回は 7 大学、2 公的機関、3 企業から計 30 名が参加し、昨年度更新した最多参加者数（27 名）を更新しました。少しずつではありますが、本協議会の趣旨に賛同して下さる神奈川県の大学・公的機関・企業が増えてきていることを感じます。主催をして頂きました神奈川大学様と事務局の KISTEC 様にはこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

会議に先立ち、ハイテク・リサーチ・センターの見学会が行われました。時間の関係で全ての装置を見せて頂くことは出来ませんでしたが 20 機器以上の先端装置を拝見させて頂き、神奈川大学の意気込みを感じることが出来ました。その後の会議では

- ・研究開発を促進するための公募情報等について（KISTEC）
- ・化学分析機器の最新状況の紹介（㈱日立ハイテクノロジーズ）
- ・知財マッチングを活用した R&D 型中小企業の紹介（㈱スタックス）
- ・連携事例の発表（神奈川大学）

の講演が行われ、これらの情報提供に対する議論が活発に行われました。その後の意見交換会でも 20 名の方にご参加頂き、公の場ではなかなか言えないような貴重なご意見も拝聴することができました。

協議会が発足してから 10 年が過ぎますと、本活動の意義を問われるようになって来ます。地道な活動ではありますが大きな成果を・・・と言われると厳しいのですが、少しでも神奈川県の研究開発促進に貢献できるよう、機器分析評価センターも尽力します。

皆様の更なる御指導をお願い申し上げます。